

平成23年度

東女11月号

秋が深まって、園庭の木々の葉も少しずつつづいてきました。運動会の経験を通して、友だちとの関わりがより充実してきた子どもたちです。じっくりと物事に取り組む姿勢も見られるようになってきました。作品展に向かって、描いたり、形にしたりすることを楽しみながら、ひとりひとりが自分の思いを十分に表現していくことができるようになっていっています。

気温の変化が著しい今年の秋です。ウィルス性のカゼも流行が早まるとの情報もあります。手洗い・うがいをしっかりとって予防に努め、体調には、くれぐれも気をつけて過ごしましょう。



年少

秋の青空の下、元気いっぱい体を動かしている子どもたちです。運動会でお兄さんお姉さんが踊った遊戯を、教えてもらうとすぐに振りを覚え「ひょっこりひょうたん島おどりた〜い！」と思いきり体を動かしたり、玉入れを始めると投げ入れるということが楽しくて何度も何度も繰り返して行っていました。

運動会や普段の生活を通して、友だちと一緒にすると楽しいということを実感している子どもたちです。お店屋さんの環境があれば、たちまち寄ってきて「いらっしやいませ〜」「お弁当ください」「はい〇〇円です」とやり取りが始まったり、それをみて砂場近くでも「いらっしやいませ〜おいしいプリンですよ〜」とお店屋さんが展開されています。同じイメージの中で、友だちと物のやりとりや、言葉のやり取りを楽しんでいます。友だちと遊ぶ楽しさをたくさん感じている子どもたちですが、反面とつさに言葉にはならず、手が出てしまうなど、ぶつかり合う姿も見られます。保育者が間に入りながら、両者の気持ちを引き出し、思いを受けとめたうえで、少しずつ相手の気持ちを感じていけるようにしています。

運動機能もだいぶ発達し、子どもたちひとりひとりの走りや体の動きも変わってきました。正課体操では鉄棒にも取り組んでいます。鉄棒でも、つかんだ手を離さない、鉄棒の握り方をしっかりと確認して、ぶらぶらとぶら下がったり、足抜き、豚の丸焼きなどを行なっています。

10月下旬より、表園庭にも遊びに行くようになり「いろんな乗り物があるね」「今日はキリンさんに乗りたい！」と今まで触れたことのない遊具に大興奮な子どもたちです。でも、アスレチックに登ってみたいけれど思いのほか高かったり、怖かったりということも感じている姿があります。一度経験すると「できる」というつもりになってしまう子どもたちです。先生と一緒に時だけ表園庭に行っていることや、先生がいる時だけ太鼓橋をしいこと、ひとつひとつの遊具にも遊び方があることなど、その都度知らせながら、子どもたちが安全に楽しく遊べるように配慮していきます。

作品展に向かって、さらにみんなでする楽しみが感じられるように、各クラス絵本を題材に、物語の世界をごっこなどしながら楽しんで、さまざまな素材を使って作ったり描いたりし、共有する楽しさを充分に味わっていただきたいと思います。

今月の目標

年少組 ・作ったり、描いたりすることに興味・関心を持つ
・共通のイメージの中で、友だちと関わって遊ぶ

年中組 ・友だちとの関わりの中で、自分を主張しながら、互いに気持ちの伝え方に気付いていく
・共通のイメージの中で、いろいろな素材を使って、作ったり描いたりして表現していく

年長組 ・共通の目的に向かって仲間と相談したり、考えたりしながら創り上げる喜びを感じる。
・いろいろな素材を使って、工夫しながら作品作りを楽しむ



年中

走ったり、動いたりすることが心地よい季節になりました。運動会以後、園庭では年長や他のクラスと自然に関わりながら遊ぶ姿が見られます。ごっこ遊びやリレー、タイヤ引きや鬼ごっこ、遊戯など「入れて」と抵抗なく仲間に入っていきます。関わりながら、年長児の力強さや速さに刺激を受けているようです。

身体の動きやバランスがとても良くなり、長縄跳びが上手に跳べるようになったり、鉄棒、のぼり棒にも果敢に挑戦している子どもたちです。

色づいてきたイチゴの落ち葉を集めたり、落ち葉の見立て遊びや砂場でケーキ作りなどもしています。「一緒に遊ぼうよ」「昨日の続きをしようよ」と特定の友だちを誘ったり、気に行った遊びを繰り返す姿が増えてきました。遊びの中で、友だちの真似をしたり、友だちの得意なことを教えてもらう姿も見られます。同じことをして大笑いをしたり、遊びのアイデアを伝え合ったりして遊びが広がっています。

楽しい友だち関係が広がる反面、衝突も出てきました。自分の思いばかりで相手の思いが受け入れられなかったり、大意はない言葉やちよっかいで友だちを傷つけてしまうこともあります。保育者は足りない言葉を補ったり整理したりしながら、相手の思いを感じとれるように援助しています。また、言われるだけで言い返せない子どもや、すぐに保育者に頼る子どもには自分で伝えることの大切さを知らせています。大切な友だちとの関わり方を知ってほしいですね。

クラスごとに、お話の世界での遊びが広がってきました。お話のイメージを描いたり作ったりしながら、各クラスのお部屋を作り上げていきます。

絵の具で描いたり、偶然できた形を見立てる見立て遊びも繰り返し取り組んでいます。はじめは自信のなかった子どもも、友だちの上手なところを真似したり「これお鍋みたいだね」という友だちの言葉に刺激され「これは何か煮てるの？カレーかな？」という問いかけに「あっ」と気付いて、火と湯気を描き足したりしています。自分の思いを表現する手段として柔軟に描いたり、作ったりできるようになってほしいと願っています。

今月のおやくそく

・使った物は、必ず片付けましょう。

今月の新しい歌

年少組 きくのはな やまのおんがくか

年中組 はたけのポルカ 山のワルツ

年長組 まっかな秋 うたえバンバン



年長

運動会を通して、できなかったことができるようになったり、周りの友だちに「走るの速かったね！！」「組体操で頑張ってたよね」など姿を認められたということで自信が付き、活動に積極的になってきている子ども達です。

自分が得意な登り棒や、鉄棒などを「先生、見てて！」と得意げに見せています。集団遊びの面白さを感じはじめ、今、バナナ鬼やハンターごっこを楽しんでいます。その中で「オニが多かったから、早く終わっちゃったんじゃない？オニを2人にしてみようよ」など、より遊びが面白くなる方法を考えたり「道具の方はあぶないから無しね」とルールをみんなで考えたりもしていています。友だちの存在というのが大きくなり、クラスの友だちだけでなく、他のクラスの友だちとの関わりも増えていっています。沢山の遊びを通して、もっとみんなで遊ぶ楽しさを感じていけるようにしていきたいと思います。色々なことにも興味も広がってきているので、自然に触れたり、図鑑を使って調べたりしていくこともしていきたいと思います。

さつまいも掘りでは、事前に“どんなおいもが掘れるかな？”と絵本を題材に、みんなで描いてみました。「この本みたいにおっきいお芋掘れるかな？」「いっぱい採れるかなあ？」といろいろな想像し楽しみにしていた子どもたちです。当日は少し緊張気味の様子でしたが、電車の中でも「あと三つで降りるんだよね」と降りる駅を確認し合ったり、お芋畑では「先生、こんなに大きいよ」「まだいっぱいある」と懸命に掘っていました。「ぼく終わったから手伝うね」と苦戦している友だちを手伝ったり、「私のこんなにたくさんあった！」「〇〇ちゃんのすっごく大きい」と互いにお芋を見せ合ったり、「リュック重くなった」とじぶんで掘ったお芋の重さを実感していた子どもたち、朝の緊張はどこへやら・・・とても満足そうで自信にあふれた表情に変わっていた子どもたちです。

作品展への取り組みも少しずつ始まります。絵本を題材にイメージを広げていきながら、互いに思いを伝え合い、みんなでイメージしたことをクラス毎に表現していきます。遊びの中でも“どんな素材を使ったらいいのかな？”と作るものに合わせて素材を選択していく姿があります。よりそのものらしく見えるように・・・という所で、素材の違いを感じ、選択しながら使っていけるようにしたいです。また、互いの表現の仕方を見あいながら、刺激を受け、より表現が広がっていけばと思います。子ども達のアイデアを広げたり、できるだけ形にしていけるように先生が援助しながら、友だちと一緒に作っていく楽しさを感じながら、取り組んでいけるようにしていきたいと思います。